

平成29年度
岡山県内におけるカワウ生息調査報告書
(夏季流域調査)



「鉄塔で休むカワウ」

日本野鳥の会岡山県支部

平成29年 9月

I. カワウ調査の目的

1. カワウ調査の目的

本調査は、近年個体数の増加により、採食地である湖沼・河川において人間活動との軋轢が増加しています。しかし、過去に著しく生息数が減少して絶滅の危機にさらされたこともあることから、生息数調査および行動実態調査を行い、県下においての人との共存の基礎資料とすることを目的としています。

2. 岡山県の今までの経緯

- ・平成20年度にカワウの全県生息調査を実施
- ・平成26年7月に「中国四国カワウ広域協議会」が発足
- ・平成27年2月に「岡山県カワウ対策協議会」が発足
- ・平成27年度 本県のカワウ生息状況調査を実施
- ・平成28年度 本県のカワウ生息状況調査を実施
- ・平成29年度 本県のカワウ生息状況調査を実施

II. カワウ生息状況調査計画

1. 年間計画

夏季、冬季、繁殖期の3回を予定する。

- 1) 夏季の調査は、7月上旬から8月下旬に、河川・湖沼および海域に分布する巣立ちをした若鳥も含め、県内の総羽数を調査する。
- 2) 冬季の調査は、「冬ねぐら」を中心とした場所で11月下旬から1月上旬にかけて、その利用羽数を調査する。
- 3) 繁殖期の調査は、カワウが繁殖に入る4月下旬から5月中旬に繁殖地（コロニー）における羽数と営巣数を調査する。

2. 夏季の調査計画

7月上旬から8月上旬までの間、調査員が集まりやすい土曜日を主体として、本年巣立ちをした若鳥の含めたカワウが夏季において、どれほどの羽数が県内に生息しているか、河川・湖沼および海岸域をルートセンサス方式で羽数をカウントする。調査に当たっては、数台の調査用車両を準備して2～4人が乗り組んで河川に沿って川面に居るカワウの数をカウントする方法をとる。

なお、調査には8～10倍の双眼鏡と必要に応じ20～40倍の望遠鏡を使用してカワウであることを識別する。

1) 吉井川水系の調査（7月8日と7月15日に実施。）

- ・Aコース 1日目・2日目：吉井川河口から本流 奥津湖～恩原ダムまで
- ・Bコース 1日目：金剛川、八塔寺川・八塔寺川ダム、日笠川、滝川、切池
2日目：吉野川、梶並川・久賀ダム、後山川
- ・Cコース 1日目：広戸川・塩手池、加茂川、津川・津川ダム、黒木ダム

- 2日目：津山市の宮川、皿川、倭文川、久米川、香々美川
- 2) 旭川水系の調査（7月22日と29日に実施。）
- ・Aコース 1日目・2日目：旭川河口から本流 湯原湖上流部まで
 - ・Bコース 1日目：児島湖、倉敷川、笹ヶ瀬川、足守川
2日目：百間川、砂川、児島湾
 - ・Cコース 1日目：宇甘川、誕生寺川、備中川
2日目：河内川、目木川、新庄川、月田川
- 3) 高梁川水系の調査（8月5日と8月12日に実施）
- ・Aコース 1日目・2日目：高梁川河口から本流 千屋ダム上流部まで
 - ・Bコース 1日目：里見川、小田川、美山川
2日目：成羽川
 - ・Cコース 1日目：有漢川、佐伏川、小阪部川
2日目：西川、本郷川、三室川ダム、高瀬川ダム、熊谷川
- 4) 海岸域の調査（8月23日、26日、9月2日に実施）

Ⅲ. 夏季のカワウ生息状況調査結果

1. 県内全域の生息状況

調査結果から県内全域の生息状況については以下の状況であった。

- 1) 県内全域での生息羽数は、2,743羽を確認した。
- 2) 吉井川水系、旭川水系、高梁川水系、海岸域における生息羽数分布

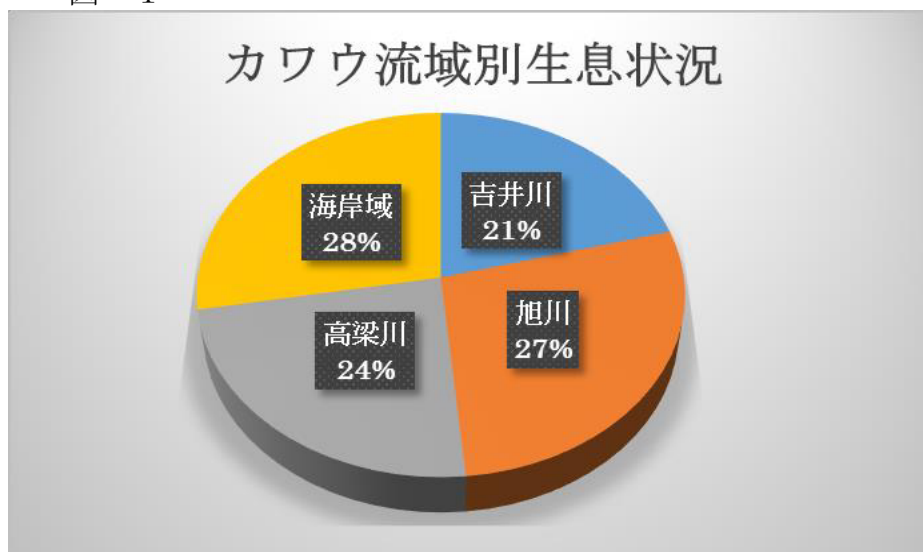
表－1

	吉井川	旭川	高梁川	海岸域	合計
確認羽数	571	760	650	762	2,743
確認割合	20.8	27.7	23.7	27.8	100

* 確認羽数は実際に確認した羽数、確認割合はその%を示す。

確認割合を図－1に示す。

図－1



表－1に示すよう、各河川流域では571、760、650羽と生息している。海岸域ではやや多い762羽であった。各河川流域および海岸域で同数程度の生息が確認された。

3) 市町村別の生息状況

表－2（確認羽数の多い順）

市町村名	岡山市	倉敷市	瀬戸内市	高梁市	新見市
確認羽数	813	389	341	177	171

市町村名	笠岡市	真庭市	玉野市	津山市	勝央町
確認羽数	122	107	101	99	96

市町村名	美作市	総社市	美咲町	和気町	備前市
確認羽数	89	57	43	37	33

市町村名	井原市	浅口市	矢掛町	赤磐市	吉備中央町
確認羽数	22	19	19	3	3

市町村名	鏡野町	久米南町	奈義町	新庄村	西粟倉村
確認羽数	2	0	0	0	0

上の表から上位10位の県内生息確認割合（％）を示す。

表－3

市町村名	岡山市	倉敷市	瀬戸内市	高梁市	新見市
確認羽数	29.4	14.2	12.4	6.5	6.2

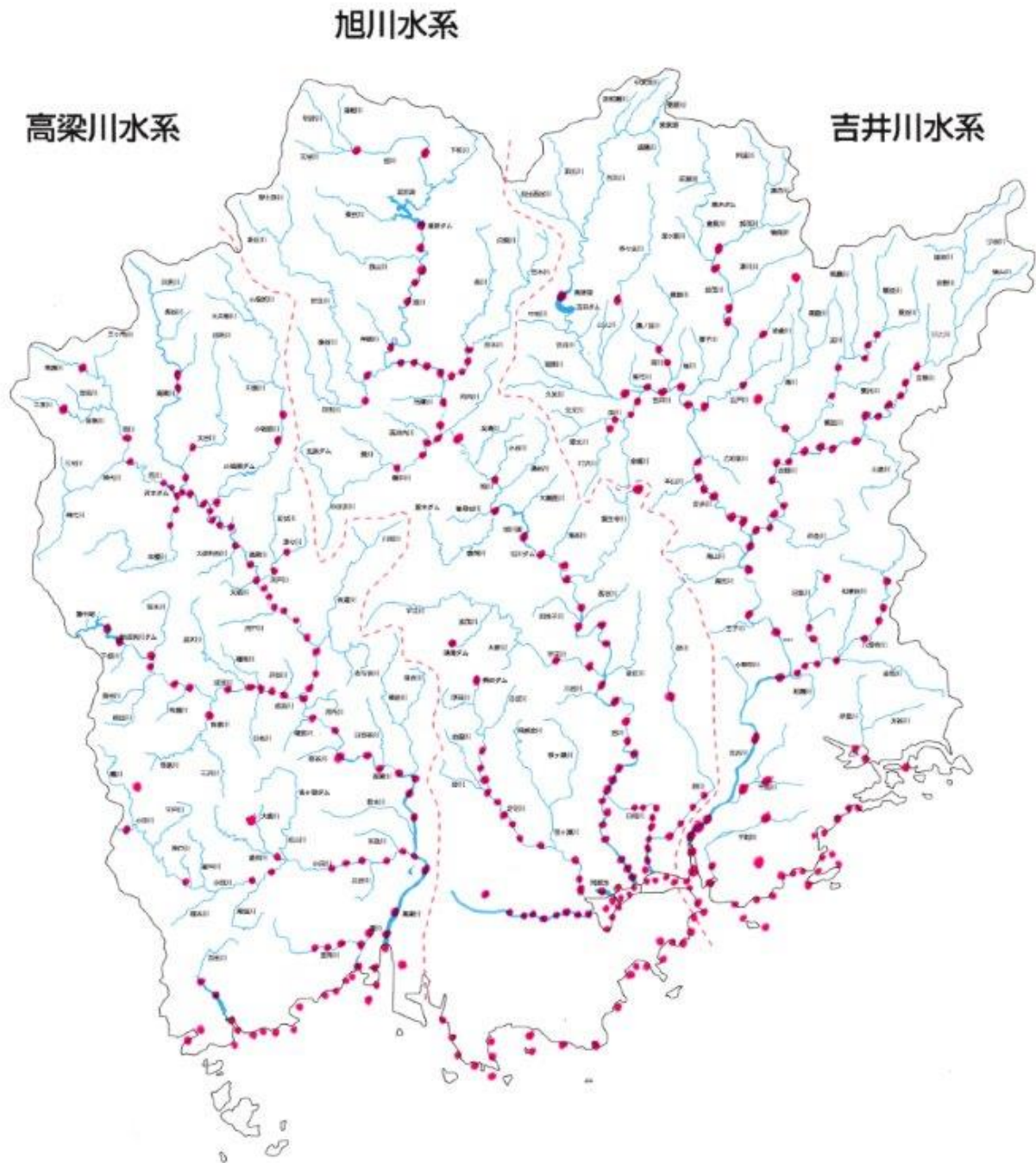
市町村名	笠岡市	真庭市	玉野市	津山市	勝央町
確認羽数	4.4	3.9	3.7	3.6	3.5

と上記の割合になる。岡山市での生息数が圧倒的である。次いで倉敷市が続いている。岡山市は、昨年より232羽も羽数が増えている。吉井川流域と旭川流域に大きなコロニーがあるので、そこからの分散が有るのではないかとと思われる。倉敷市は、昨年より67羽の増加であったが、高梁川河口部での確認が多い。3位に瀬戸内市が入ってきた。昨年は7位であった。これは海に面した牛窓町鹿忍に大きなコロニーが新たにできていたことによる。昨年4位の生息数であった備前市は100羽以上数が減少して15位の生息数であった。これは片上湾の前島にあったコロニーの樹木伐採があり大幅にその数を減らしたものである。この上位10市町村に生息する羽数は、全県下の約88％を占める羽数である。

4) 全県下の生息分布状況図

図-2

岡山県の夏期カワウ生息分



カワウが確認された場所のプロット数は、339 地点になる。(昨年、平成 28 年は 311 地点、平成 27 年は 257 地点であった。)

吉井川水系で 78 地点 (昨年は 86 地点)、旭川水系で 111 地点 (昨年は 108 地点)、高梁川水系で 88 地点 (昨年 64 地点)、海岸域で 62 地点 (昨年 53 地点) であった。

確認地点が集中するのは、児島湖・児島湾を中心とした海岸域に近い地域である。その他の吉井川水系、旭川水系、高梁川水系および海岸域では県南部から北部までかなり均一的に分布しているように見える。

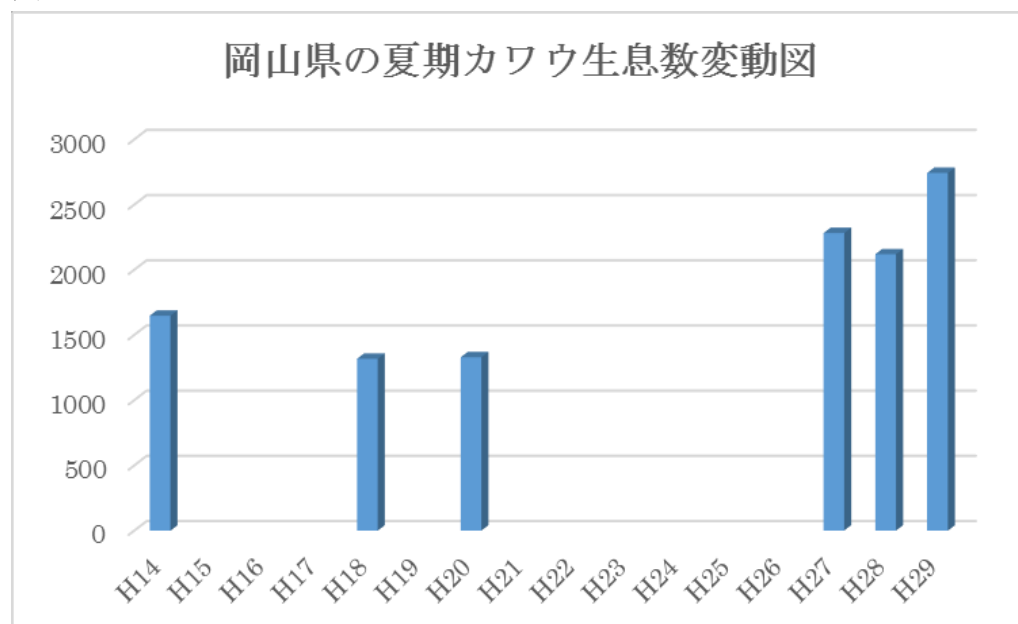
2. まとめ

平成 29 年度の夏期「繁殖後」の全県下での河川流域および海岸域では 2,743 羽を確認した。平成 14 年からのデータと比較すると以下の表になる。

表－4

調査年度	H14年	H18年	H20年	H27年	H28年	H29年
確認羽数	1,648	1,318	1,330	2,282	2,119	2,743

図－3



未調査年があり空白のところもありますが、平成 18 年・20 年の 1,300 羽の時代から 2,700 羽へと 2 倍以上の羽数を数えるようになりました。今後、岡山県内における適切な生息羽数とは何羽なのかを検討して頂きカワウと共存できる状況を検討して頂きたい。